

Poland-Japan Foundation



Poland-Japan Foundation

2025年：激動の世界に架ける、日本とポーランドの「希望の架け橋」

2025年は、ポーランド - 日本財団にとって、象徴的かつ特別な意義を持つ一年となりました。大阪 - 関西万博、第19回フレデリック・ショパン国際ピアノコンクール、そしてポーランドのEU理事会議長国就任。これらの重大な出来事を通じて、ポーランドは国際社会における存在感をさらに高めました。

地政学的な緊張や目まぐるしい技術革新、そして山積する社会課題。そんな現代において、私たちは「日本とポーランドの永続的な関係の構築」という使命を、一貫して追求し続けています。この特別な一年を作った、情熱あふれる取り組みの数々をここに紹介します。

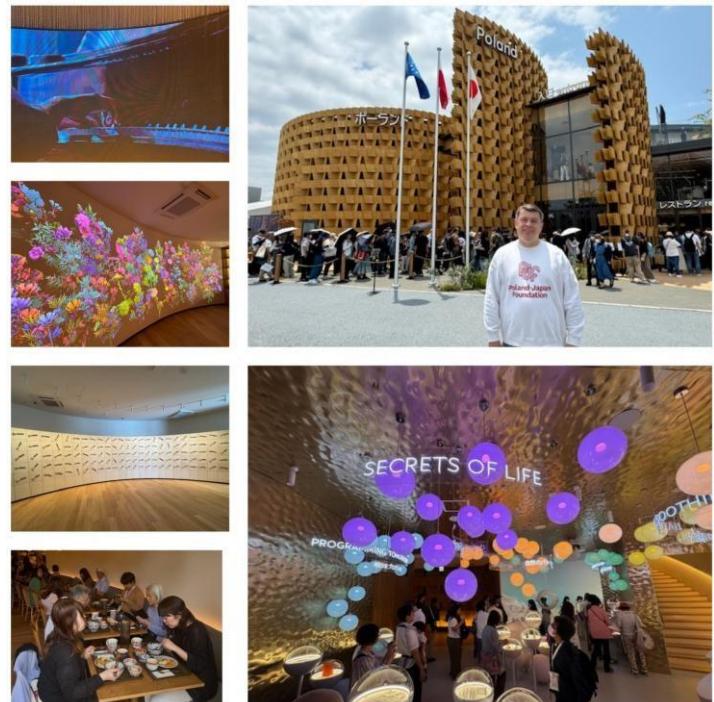
大阪・関西万博

100万人が共鳴した、ポーランドと日本の「未来への物語」

昨年、当財団の最も象徴的なハイライトの一つは、2025年大阪・関西万博でした。財団のラドスワフ・ティシュキエヴィチ会長は会場を視察し、特に100万人以上の来場者を迎えたポーランド・パビリオンの熱狂に注目しました。

当財団は万博の関連イベントに深く関わり、プロモーションや情報発信を通じて、日本との対話と協力、そして未来を共に考えるパートナーとしてのポーランドのイメージを広く浸透させてきました。

大阪・関西万博は、まさに世界が対話するプラットフォームとなりました。その中で当財団は、アニメーションや映画を制作し https://www.youtube.com/watch?v=xiJGIj_f8M ポーランドの存在感を伝える「物語」を共に創り上げました。<https://www.youtube.com/watch?v=2QDxxGIJHDA>



イノベーション、経済、国際協力

東京で開催された国際カンファレンス「Venture Café Global Gathering Tokyo」に、当財団が登壇し、世界の最新イノベーション・トレンドを巡る議論を通じて国境を越えた連携の可能性を提示しました。

特に「Innovation Without Borders（境界なきイノベーション）」セッションで行われた財団会長の演説では、日本、欧州、そして中央・東欧地域が一体となり、新たなアイデア、先端技術、起業家精神を育む「共創の場」を構築することの重要性を強く提言しました。

新たな戦略的パートナーシップ



当財団は、600社以上の企業と3,000名を超えるプロフェッショナルが結集する「在日米国商工会議所（ACCJ）」に正式加盟いたしました。この加盟は、ビジネス、文化、教育、外交の各分野における協力に新たな可能性をもたらし、「日本とポーランドの関係深化」という当財団のミッションを強力に後押しするものです。今後はACCJの委員会活動への参画や会員間の交流を通じ、ポーランド・日本・アメリカの三カ国間における経済・戦略協力の推進に努めてまいります。

当財団は、日本のメディア界の拠点である「日本記者クラブ（JNPC）」の会員となりました。JNPCへの加盟により、日本の主要メディアコミュニティへのアクセスが可能となり、各国の指導者や専門家が登壇する記者会見・会議への参加機会が開かれます。これにより、当財団が展開する文化・教育・科学プロジェクトの可視性を高め、国際舞台での地位をさらに強化してまいります。



当財団は、Central & Eastern European Trade Center, LLC(CEETC)と覚書（MoU）を締結し、経済発展とビジネス関係の強化を目的とした提携を開始しました。本提携を通じて、貿易、物流、教育、先端技術、投資、ビジネス観光、クリエイティブ産業など、多岐にわたる分野での機会創出と発展に取り組んでまいります。

これらの戦略的な歩みにより、当財団はビジネス、専門家、そしてジャーナリズムの各コミュニティを繋ぎ、多角的な対話を生み出すプラットフォームとして、その貢献をさらに加速させていきます。



地域外交と政府間協力

都市や地域こそが、国際関係を形作る「真のアンバサダー」である——。当財団はこうした視点に立ち、ポーランドと日本の各地方政府との関係構築を一貫して推進しています。

青木英二目黒区長および目黒区ポーランド友好連盟の代表者との会談において、目黒区を拠点としたさらなる友好関係の促進や、共同プロジェクトの実施に向けて、具体的かつ前向きな意見交換が行われました。ポーランド大使館が所在する目黒区は、長年にわたりポーランドの広報活動を支えてくださっています。

静岡県浜松市を訪問し、中野祐介市長と会談いたしました。浜松市とワルシャワ市の間には、1990年代から続く深い協力関係があります。アクトシティに立つワルシャワ・ショパン像のレプリカは、両都市の絆を象徴する存在です。会談では、ショパンの音楽を共通言語とした、将来的な協力の可能性について語り合いました。



駐広島ポーランド共和国名誉総領事の
苅田知英氏と会談し、中国地方の特性
を活かした文化・科学・経済分野での
連携について議論しました。平和の象
徴である広島は、国際的な外交・市民
活動において常に先導的な役割を果た
しています。人道的かつ異文化的なプ
ロジェクトを開拓するための、極めて
特別な舞台として、今後の協力に大き
な期待が寄せられました。



当財団は急速な発展を遂げる北海道との交流を本格化させました。道庁代表者との協議では、文化プロジェクトや青少年交流プログラムの実施計画を話し合いました。アイヌ文化研究者であり、ユゼフ・ピウスツキの兄でもあるブロニスワフ・ピウスツキの遺産、そして現地のポーランド人コミュニティの存在により、北海道は当財団にとって極めて重要な意味を持つ地域となっています。

ワルシャワおよびクラクフの当局代表者との協議では、文化・経済の両面における日本との長年にわたる密接な関係を再確認しました。2025年大阪・関西万博における各都市・地域のプロモーションや、ポーランドと日本の関係をさらに強固にする共同プロジェクトの可能性についても、

戦略的な話し合いが進められました。



音楽と芸術

言葉を超えた相互理解の共通言語



10月、東京にて当財団の後援による「ポーランド×日本 友情コンサート」が開催されました。会場には、クラシック音楽の愛好者のみならず、ポーランドと日本の文化交流の支援者が集いました。繊細なフルート、深く豊かなチェロ、そして温もり溢れるピアノ、これら三つの楽器が織りなすハーモニーは、まさに「友情と相互理解」という感動的な物語を紡ぎ出し、聴衆を至福のひとときへと誘いました。

<https://www.youtube.com/watch?v=PF2rGr3wfj8>

コンサートと音楽イベント

音楽は、当財団の活動において最も重要な柱の一つであり続けています。

5月、東京・大田区民プラザにて、当財団主催による「春のピアノコンサート」を開催いたしました。このイベントは、ポーランドのEU理事会議長国就任を祝すとともに、来る第19回ショパン国際ピアノコンクールの機運を高めるプロモーションを目的としたものです。

ピアニストの里見有香氏による演奏は、会場を埋め尽くした観客から熱狂的な喝采を浴びました。ショパンをはじめとするポーランド人作曲家の名曲を見事に解釈し、その情熱的で繊細な調べは、聴衆の心を深く捉え、魅了しました。

<https://www.youtube.com/watch?v=5HdIuZAEk0A>

ポーランド×日本 親善コンサート ~楽歌の風に説かれて~

2025.10/26 sun

La Salle F (ラ・サールエフ)
Start 13:00/Open 12:30
Ticket ¥3,500



ワルシャワで開催された第19回ショパン国際ピアノコンクールを記念し、当財団は色彩豊かで躍动感あふれるコミック『小犬のワルツ』を制作いたしました。このユニークな一冊は、読者にフリデリック・ショパンの素顔とその音楽が持つ不思議な魔法をより身近に感じていただける仕上がりとなっています。

展覧会・芸術プロジェクト

財団はまた、ポーランドと日本の豊かな文化を紹介する様々なイベントを支援・プロモーションいたしました。これらの活動は、両国の観客の間に新たな「出会い」と「感動」、そして深い「対話」が生まれる貴重な場を創出しました。

当財団は、京都国立近代美術館で開催された「く若きポーランド〉—色彩と魂の詩 1890-1918展」をプロモーションいたしました。19世紀末から20世紀初頭にかけてのポーランド人アーティストによる、絵画、版画、家具、織物など130点以上の傑作が集結。印象派や日本の浮世絵といった西洋・東洋の双方から受けた影響と、ポーランド独自の文化的伝統が見事に融合した美の世界をお届けする貴重な機会となりました。

<https://www.youtube.com/watch?v=lme28TaqF00>

The poster features a large orange rectangular area on the left containing the exhibition title in white serif and script fonts. Below the title is a small caption in a smaller font. To the right of this orange area is a painting of a young woman with curly hair, holding a bouquet of white flowers, set against a dark, textured background.

YOUNG POLAND
Polish Art
1890-1918

オルガ・ボズナンスカ《薔薇を抱く少女》1894年、クラクフ国立博物館蔵
Olga Boznańska: Girl with Chrysanthemums, 1894, National Museum in Kraków

若きポーランド—色彩と魂の詩1890-1918
京都国立近代美術館
[岡崎公園内]

InSight FarEast

The Spaces of Silence | Japan & South Korea

Partners & media patronage



当財団は、写真および社会プロジェクト「InSight FarEast」のメディア後援を行いました。本プロジェクトは、極東諸国の歴史的・文化的遺産を広く紹介することを目的としており、一連のセミナー・連載記事、写真展を通じて、日本の歴史や文化をポーランドの人々により身近に感じてもらうための架け橋となっています。

Kultura Japonii w ciekawym stylu

W programie m. in.:

- Warsztaty: „Zrób własne naklejki” · „Origami: Senbazuru” · „Chibi na luzie”
- Prelekcje: Japonia na co dzień · Wprowadzenie do anime i mangi · Cosplay · Hello Kitty i więcej
- Dodatkowo: · Cosplayowa fotobudka · Game Room · Gość specjalny

20 września
12.00–20.00
Pl. Dworcowy 1, Racibórz

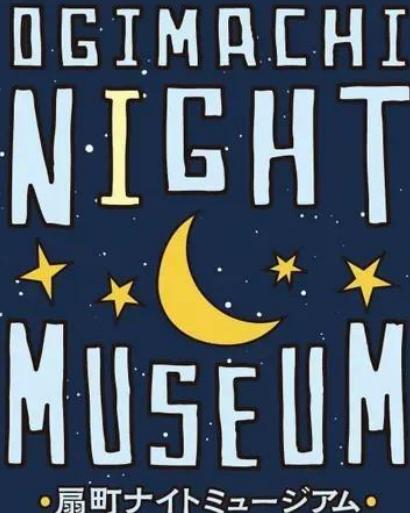
Po więcej informacji zeskuną kod:

Pomysłodawca i główny organizator:
Nadia "Dusiek" Dlugosz

Racibórz | Biblioteka | Urban Lab | Urban Lab —Café

Patronat: Poland-Japan Foundation

当財団は、ポーランドのラチブシュで開催された「おもしろいスタイルの日本文化」イベントの後援をいたしました。



当財団は、大阪の扇町ミュージアムキューブで開催された、夜間展覧会シリーズである「扇町ナイトミュージアム」の推進事業を支援いたしました。

ポーランド国立放送交響楽団 来日特別企画♪
10~20代で数多くの個展・国内ソロ・コンサートの優勝・入賞を果たし、
国際的に活躍を続ける二人が、ソリストとしてアジア初公演！

KAROL GAJDA & TOMASZ HAJDA
TROMBONE DUO RECITAL JAPAN DEBUT

カルロ・ガイダ
トマシュー・ハイダ
トロンボーン
デュオ・リサイタル

2025年9月19日(金)
開演 19:00 日本福音ルーテル東京教会
JR「大久保」駅 徒歩 5分 / JR「大久保」駅 徒歩 9分 / 都営 大江戸線・副都心線「東新宿」駅 徒歩 7分

PROGRAM
グレーダー「クロゴーナ」協奏曲、ブルース「さあ君に出よう」
ブッチャニ 楽譜「スカ」より「星は光りぬ」 デュオ「ハハハ風」
モヤ「リヤ」 セロフ「ナナイネ」、「トロンボーン四重奏のための組曲」
菅野よう子「花は咲く」 アグレル「オペルタライ」ほか

全席指定 ※ 幸運・混雑時実施あり ※ 豪華な購入または複数のいずれかに該当していれば料金
一覧 4,500円 / 26,000円以上 4,000円 / 学生 2,000円 / 中学生 1,500円 / 小学生 1,000円

チケット販売 THEIN BRASS 公式会場 真世賀株式会社
merino Records Mitsuki Music School TAKASHIBRO ONLINE SHOP
協賛 : 一般財団法人 町田美術教育協会 Poland-Japan Foundation 日本オペラセンター
協力 : 株式会社テンザリ 主催 : ブラスオブザワールド JP 080-1225-5351 | info@brassoftheworld.jp

www.brassoftheworld.jp

当財団は、東京にて開催されたポーランド人アーティストによるトロンボーン・ジョイント・リサイタルのプロモーションを支援いたしました。プログラムには、ポーランドおよび世界で活躍する著名な作曲家の作品が並び、その力強くも繊細な演奏で聴衆を魅了しました。

映画「スクリーン・(映る情熱：日本で輝くポーランド人の物語)」

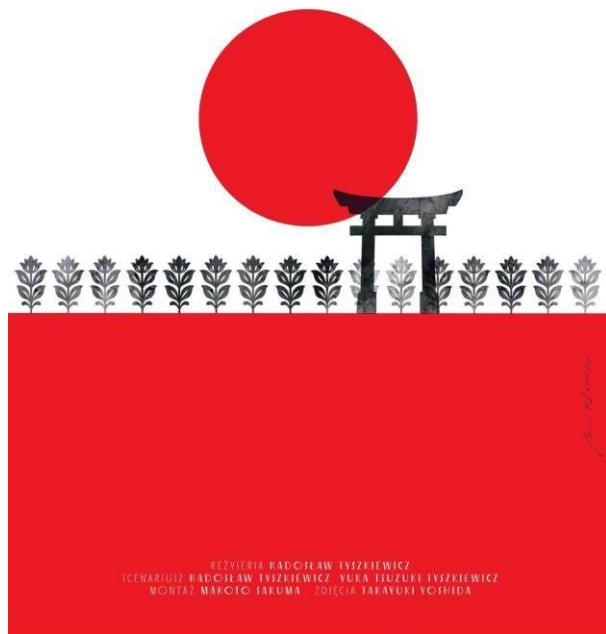
Trailer: <http://www.youtube.com/watch?v=VO2Hm/-YI8A>

2025年、当財団が手掛けた最も重要な映画プロジェクトは、ドキュメンタリー作品『遥かなる日本へ～ポーランド人の情熱と成功の物語～』です。本作は、日出する国・日本で暮らすポーランド人たちの情熱、キャリア、そして成功の軌跡を追ったドキュメンタリーです。現代の在日ポーランド人コミュニティの活発な姿を描き出し、両国の間に永続的な架け橋を築く彼らの真摯な貢献を浮き彫りにしています。また、本作のポスターは、ポーランドを代表する世界的なポスター作家、アンドжеイ・パゴフスキ氏がデザインを手掛けました。

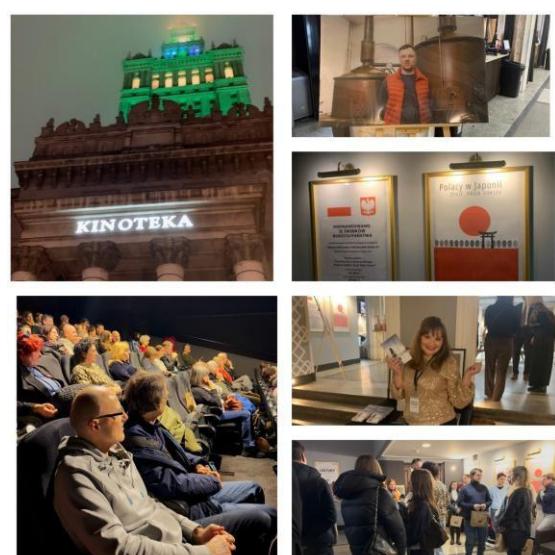


その後、上映の舞台はポーランドへと移り、12月27日にはワルシャワの文化科学宮殿内にある「キノテカ」、29日にはビヤウイストクの「ファマ・クラブ」で開催されました。いずれの会場も満員御礼となり、上映後にはゲストの皆様と刺激的な対話が繰り広げられました。

POLACY W JAPONII
ŻYCIE PASJA SUKCES



10月30日、東京・渋谷区のユーロライブにてプレミア上映会を開催いたしました。会場には、在日ポーランド人コミュニティ、在日ポーランド共和国大使館、外交団、ビジネス、メディア関係者、そして日本におけるポーランドの友人たちが集まり、華やかな幕開けとなりました。



大阪・関西万博の期間中、東京にてポーランド映画協会（PISF）と映像産業振興機構（VIPO）の共催による「ポーランド・日本映画ミーティング」が開催されました。両国から26社もの映画関連企業が参加し、双方の製作実績の紹介や経験の共有、さらには共同製作や資金調達に関する戦略的な議論が行われました。当財団のラドスワフ・ティシュキエヴィチ会長も出席し、ドキュメンタリー作品『遥かなる日本へ～ポーランド人の情熱と成功の物語～』のプロモーションを通じて、映像分野における両国のさらなる連携を推進しました。



歴史と共に感

当財団は、両国が共有してきた歴史を振り返り、そこに宿る「勇気、連帯、共感」こそが、過去から現在、そして未来へと続くポーランドと日本の関係の搖るぎない礎であることを強調しながら、歴史に関連する活動を継続しています。

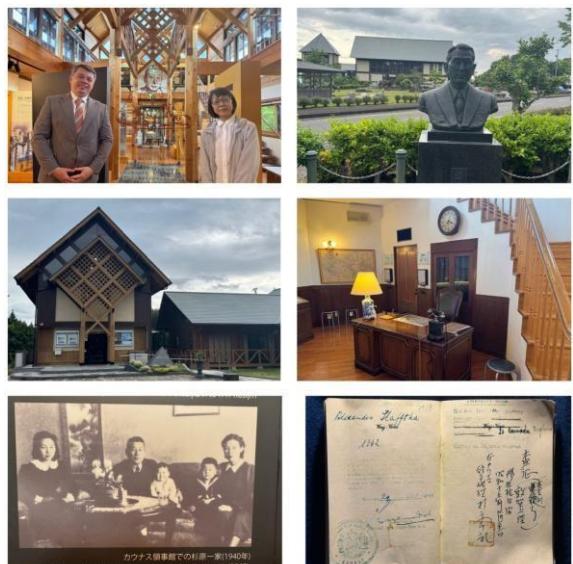
アウシュヴィツ収容所解放80周年という節目に、当財団のラドスワフ・ティシュキエヴィチ会長が福島県白河市にある「アウシュヴィツ平和博物館」を訪問しました。2003年からNPO法人として運営されている同館は、収容所の凄惨な歴史を伝える展示や、これまでに延べ5万人もの来館者に平和を訴える教育活動を行っています。当財団は、同館の尊い活動に深く敬意を表し、このたび支援会員となりました。

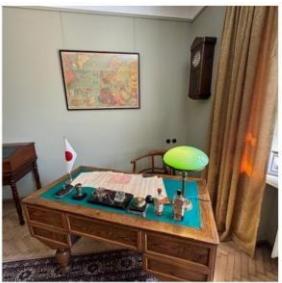


当財団のラドスワフ・ティシュキエヴィチ会長は、ニュースと音楽のイベント「The 80th Anniversary of the End of World War II: Reconciliation in Europe and Asia」にスピーカーとして登壇いたしました。討論では、ポーランド・ドイツ・フランス間の和解の歴史に加え、日本と韓国、その他のアジア諸国との関係の変遷に焦点が当てられました。ライブパフォーマンスを通じ、言葉の壁を超えた音楽が、平和を促進し深い感情を呼び起こす重要な役割を果たすことが改めて確認されました。

<https://www.youtube.com/watch?v=oEK9ssR6x4M>

第二次世界大戦中、リトアニアのカウナスで「命のビザ」を発給し、多くのポーランド市民を含むユダヤ人を救った外交官・杉原千畝氏。その勇気と博愛の精神を称えるため、会長は岐阜県八百津町の「杉原千畝記念館」およびポーランドのカウナスの「杉原記念館（杉原ハウス）」を訪問しました。





八百津町の杉原千畝記念館とカウナスの杉原記念館（杉原ハウス）での会談では、杉原氏を記念する共同の教育・文化プロジェクトの実施について具体的な議論が行われました。当財団は、彼の「道徳的責任、勇気、他者への善意」という普遍的な物語を、ポーランドと日本の両国でより広く普及させることを目指しています。

ポーランドのビヤウィストクにあるシベリア記憶博物館において、財団の会長と、同博物館の館長との会談が行われました。会談では、教育・文化分野における協力強化の計画について議論されました。同館には、100年以上前に日本の支援によって救出された「シベリア孤児」の写真や、研究者プロニスワフ・ピウスツキの資料など、日本と深い縁を持つ貴重な資料が多数収蔵されています。2024年には同館の代表団が訪日し、敦賀や神戸などで救出100周年の式典に参列するなど、草の根の絆を強めています。



当財団は、2つの重要なソーシャルメディアキャンペーンを展開しました。一つは「2025年大阪万博」におけるポーランドの魅力を発信し、文化とイノベーションを強調するもの。もう一つは、「日露戦争勃発120周年」を記念するものです。この衝突が持った歴史的意義を照らし、ポーランドと日本の共通体験を改めて強調することを目指しました。

【知の拠点】ポーランド・日本シンクタンク

2025年、当財団は独自のシンクタンクを設立いたしました。これは、ポーランド、欧州、そして日本の三者間における未来の関係性を分析し、専門家による対話と戦略的な考察を深めるための新たなプラットフォームです。また、以下の出版物の刊行を行いました。

- Towards EU-Japan Relations: A Strategic Partnership at a Pivotal Juncture: <https://polandjapanfoundation.com/wp-content/uploads/2025/07/Towards-EU-E2%80%93Japan-Relations.pdf>
- The EU AI Act and the Japan's AI law share the same a human centric approach but only one of them has teeth: <https://polandjapanfoundation.com/wp-content/uploads/2025/11/The-EU-AI-Act.pdf>
- Unlocking Opportunities for Japanese-European Cooperation in the Global South: <https://polandjapanfoundation.com/wp-content/uploads/2025/11/Unlocking-Opportunities-for-Japanese-European-Cooperation-in-the-Global-South.pdf>
- A means to an end and an end in itself: <https://polandjapanfoundation.com/wp-content/uploads/2025/12/A-means-to-an-end-and-an-end-in-itself.pdf>
- Challenges and Opportunities Opened by the Rising Biotechnology and Bioeconomy in the Context of Japan: <https://polandjapanfoundation.com/wp-content/uploads/2025/12/Challenge-and-Opportunities.pdf>

The cover page features the Poland-Japan Foundation logo (Pjf) and the title 'Towards EU-Japan Relations: A Strategic Partnership at a Pivotal Juncture' in white text against a red background. Below the title, it says 'Erik Lenhart and Michael Tkacik'. The date '23 July 2025' is in the top right corner.

Introduction

The 30th EU-Japan Summit, held in Tokyo on July 23, 2025, marked a historic milestone in the strategic partnership between the European Union (EU) and Japan. Against a backdrop of Japan's domestic political turmoil, shifting global trade dynamics, and escalating geopolitical tensions, the summit delivered an unprecedentedly comprehensive joint statement, signaling a deepening of cooperation across security, economic, climate, and digital domains. This analysis evaluates the summit's outcomes, the challenges posed by Japan's internal instability and global pressures, and strategic recommendations for sustaining this critical partnership in a multipolar world.

Key Outcomes: A Maturing Strategic Partnership

The 2025 summit built on the foundations laid by the 2023 summit, shifting from broad commitments regarding shared values and multilateralism to concrete, institutionalized mechanisms with clear timelines and deliverables. This evolution reflects a partnership equipped to address interconnected global challenges, positioning the EU and Japan—representing nearly a quarter of global GDP and 20% of world trade—as pivotal players in promoting a rules-based international order.

1. Security and Defense: Operational Integration

The summit marked a transformative leap in security and defense cooperation, moving beyond dialogue to operational integration. Key initiatives include:

- Japan-EU Defense Industry Dialogue: A platform to foster collaboration on defense technologies, interoperability, and joint R&D in dual-use technologies.
- Security of Information Agreement (SIA): Formal negotiations to enhance secure data-sharing, critical for addressing hybrid threats and cybersecurity.
- Expanded Scope: New focus areas such as space security, countering foreign information manipulation and interference (FIMI), maritime security, and non-proliferation, aligning with international law and UN frameworks.
- Joint Exercises: Commitments to joint training, capacity-building, and coordination in multilateral forums, reflecting the interconnected security of Europe and the Indo-Pacific.

These developments underscore a shared recognition of the nexus between European and Indo-Pacific



北海道訪問中の当財団のラドスワフ・ティシュケヴィチ理事長は、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター（SRC）所長の長縄宣博教授と会談しました。同センターは中央・東欧研究における世界有数の学術拠点であり、ポーランドにとっても重要な役割を果たしています。会談では、共同プロジェクトの実施や、当財団が新設したシンクタンクへの支援など、今後の協力の展望について活発な意見交換が行われました。

東京にて日本国際交流基金の代表者と会談し、財団との関係をさらに強固にするための新たな協力分野について協議いたしました。特に、2026年にポーランド・ポズナンで開催予定の European Association for Japanese Studies (EAJS) 国際会議への国際交流基金の関与の可能性については、重要な議題として建設的な話し合いが進められました。



財団のさらなる飛躍へ



当財団のポーランド本部は、ワルシャワのビジネスおよび文化の中 心地として急速な発展を遂げてい るヴォラ地区の近代的なオフィス ビル「コンセプト・タワー」に移 転いたしました。今回の移転は、 文化・科学・教育・起業といった 多岐にわたる分野で、ポーランド と日本の対話をこれまで以上に効 果的に支援していくための重要な 一歩となりました。

当財団の新たな象徴となるヒロ イン「アニヤ(Ania)」をご紹 介いたします。アニヤは、才能 豊かな日本の若手アーティスト・ KAMU氏(@kamu_4422) によって生み出された、躍動感 あふれるキャラクターです。アニ ャはエネルギー、楽観主義、そし て若々しい新鮮さを体現してお り、現代のポーランドと日本の 絆のユニークさを見事に反映し ています。



Poland-Japan
Foundation



アニヤ
Ania

未来を見据えて

2025年は、ポーランドと日本の対話に極めて大きな可能性があることを証明した一年でした。その歩みの中で、当財団は協力のイニシエーター（発案者）、パートナー、そして促進者として、かつてないほど重要な役割を担うようになりました。当財団を信頼し、この素晴らしい旅路を共にしてくださった全てのパートナー、諸機関、芸術家、科学者、そして友人の皆様に、心より深く感謝申し上げます。

幕を開けた2026年は、私たちに新たな始まりと無限の機会をもたらしてくれます。皆様が健やかに、そして情熱と計画を追求するための活力に満ちた一年を過ごされますよう、当財団一同、心よりお祈り申し上げます。

2026年が、さらなる対話を生み、ポーランドと日本の関係がより一層深く、豊かなものになる年となりますように。

新年あけましておめでとうございます。

